

# 中島村ため池ハザードマップ



中島村

## ため池ハザードマップ

平成30年7月豪雨において、全国多くのため池の決壊等が発生したことから、中島村ではその後の豪雨、台風、地震等に備えて、村内6箇所の農業用ため池（※防災重点ため池）について、ため池ハザードマップを作成しました。

ため池ハザードマップとは、ため池が満水状態で大雨および地震の発生に伴い堤体が破堤した場合を想定し、浸水到達時間、浸水想定区域、浸水深を色別で表示するとともに、避難場所についても記載し、村民の皆さんが自主的な避難や危険回避行動ができることを目的として作成した地図です。

※防災重点ため池：決壊した場合の浸水区域に家屋や公共施設等が存在し、人的被害を与えるおそれのあるため池をいいます。

## ため池

ため池とは、農業用水を確保するために水を貯え取水ができるよう、人工的に造成された池のことです。ため池の多くは江戸時代以前に築造され、築造にあたっては、各地域において試行錯誤を繰り返して得られた経験をもとに造られたものと推測されます。

## ため池の役割

ため池は、農業用水の確保だけでなく、生物の生息・生育の場所の保全、地域の憩いの場の提供など、多面的な機能を有しています。

また、降雨時には雨水を一時的にためる洪水調整や土砂流出の防止などの役割を持っています。

## ため池の課題

近年、集中豪雨が頻発する傾向にあり、これに伴い土砂災害も増加傾向にあります。今後30年間に最大震度7クラスの地震が約70%の確率で発生すると言われ、懸念されています。東日本大震災では、ため池決壊により尊い人命が失われるとともに、住宅や農地などでも被害が発生しており、大規模地震に備えた耐震照査と必要な整備の実施が急務となっています。

村では、現在、耐震調査を実施し、必要な整備について計画作成していきます。本村の農業用ため池は、受益者を主体とした中島村土地改良区によって管理されていますが、農家戸数の減少や土地利用の変化から管理及び監視体制を強化する必要があります。



# ため池ハザードマップの見方・使い方

## ■ハザードマップ作成の目的

ため池ハザードマップは、万が一の事態でため池が決壊した場合、最大でどの程度の浸水範囲となるかを知るために最悪の状況を想定した浸水予測を行いました。住民のみなさんがこのハザードマップを通じて、想定される災害を事前に知り、自らの避難を考え、地域の防災力向上につながることを目的としています。

## ■ハザードマップの作成条件

現在起こりうる最大の危機を想定しました。ため池が満水の状態で、貯水量の全量が下流域に流れ出す場合を想定しました。



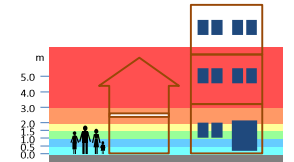
## ■そうってからでは遅い！早めの避難

浸水が始まってから行動したのでは、手遅れになる場合があります。あらかじめ、このハザードマップで水がせまりくる状況を学び、万が一の事態が発生した場合の早めの判断、速やかな行動につなげてください。

## ■ハザードマップに載せる情報

### ① 場所ごとの浸水する深さ

場所ごとの浸水する深さを色分けして地図上に表示しました。



### ② 到達時間

ため池の水が到達するまでの時間を表示しました。

### ③ 避難場所

避難する場所を地図上に表示しました。なお、一刻も早い避難が必要な事態になったときは、指定された避難場所によらず、近くの高台へ避難してください。



### ④ いざというときの心構え

いざというときの避難に備えて、日常から心がけておく事柄を記載しました。

## 地図を見るうえでのポイント

- ・地図の凡例を参考に、どこにどのような浸水が想定されているか確認しましょう（浸水想定区域では、水だけでなく、土砂や流木、地図上にある様々なものが押し流されてくる可能性があります。）
- ・災害の状況によっては、避難所へ向かうことが危険な場合があるので注意しましょう。
- ・地図上にある災害シナリオを参考に、災害の発生から避難完了までを考えてみましょう。
- ・地図を片手に自分の家から避難所まで歩き、実際の距離感や、災害時に危険そうな箇所（地震時に崩れそうなブロック塀、大雨時に溺れそうな深みのあるところ）や、逃げ込める高台などをあらかじめ確認しておきましょう。

## いざというときは

- ・避難は可能な限り浸水がはじまる前に
- ・動きやすい服装で、持ち出し品は最小限に
- ・必ず徒歩で！足下に注意して避難
- ・ため池直下（2.0～3.0mの水深予想）：速やかに高台へ
- ・ため池直下以外（0.5m～1.0mの水深予想）：建物の2階などに移動し、水が引いたら避難所へ避難

ため池ハザードマップは、万が一決壊した場合の備えとして、浸水の深さやいざという時の心構え、避難所などをハザードマップとして地図上に整理しました。浸水の特徴を理解して、地域住民が話し合い、ハザードマップを理解することで、いざ防災情報を得た際に正しい判断・行動がとれるようになります。特に、ため池の下流（被害想定範囲）の地区にお住まいの方は自宅のよく目にするところに貼るなどして、日頃から確認しておきましょう。

## 緊急連絡先

名称	電話番号
中島村役場	0248-52-2111
消防・救急	119
矢吹消防署泉崎中島分署	0248-53-2978
矢吹消防署	0248-42-3762
警察	110
白河警察署中島駐在所	0248-52-3199

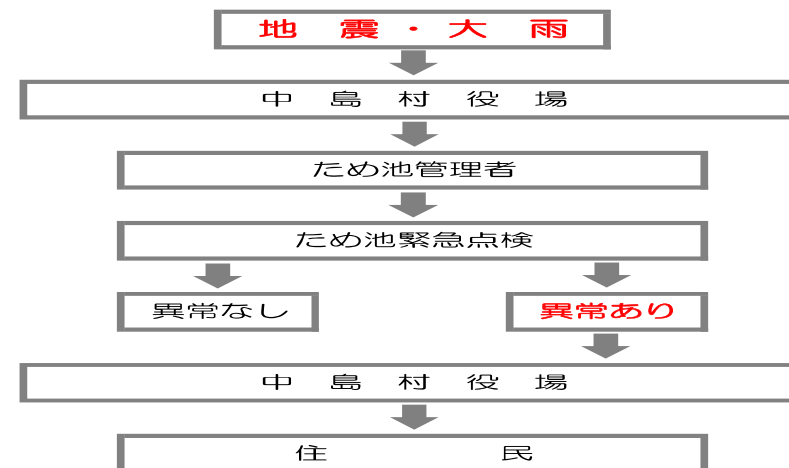
## 地震のあとの災害シナリオ

時間	発生前	数秒～1分	1～3分後	5～10分後	約30分後～50分	落ち着くまで
地震情報 (TV・ラジオ)	緊急地震速報 (数秒前)	<b>発生</b>	地震速報 防災無線	被害の情報収集		
被害	<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; display: inline-block;">ため池から下流の各地区に浸水到達</div>					
	<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; display: inline-block;">〇決壊しない場合 緊急放流で水位低下・点検</div>					
	※地震直後に決壊しなくても、数日後に決壊することがあるため、監視を継続					
行動の目安	少しでも安全な場所へ移る	いのちを守る	家族を守る 揺れがおさまったら、高台や安全なところへ避難	安全な場所へ避難	避難所などで待機し、村の指示を待つ	



## 緊急時のため池管理体制

～災害時の情報伝達の流れ～





# 新池（滑津）ハザードマップ（新池が決壊した場合の浸水被害想定範囲）



**凡例**

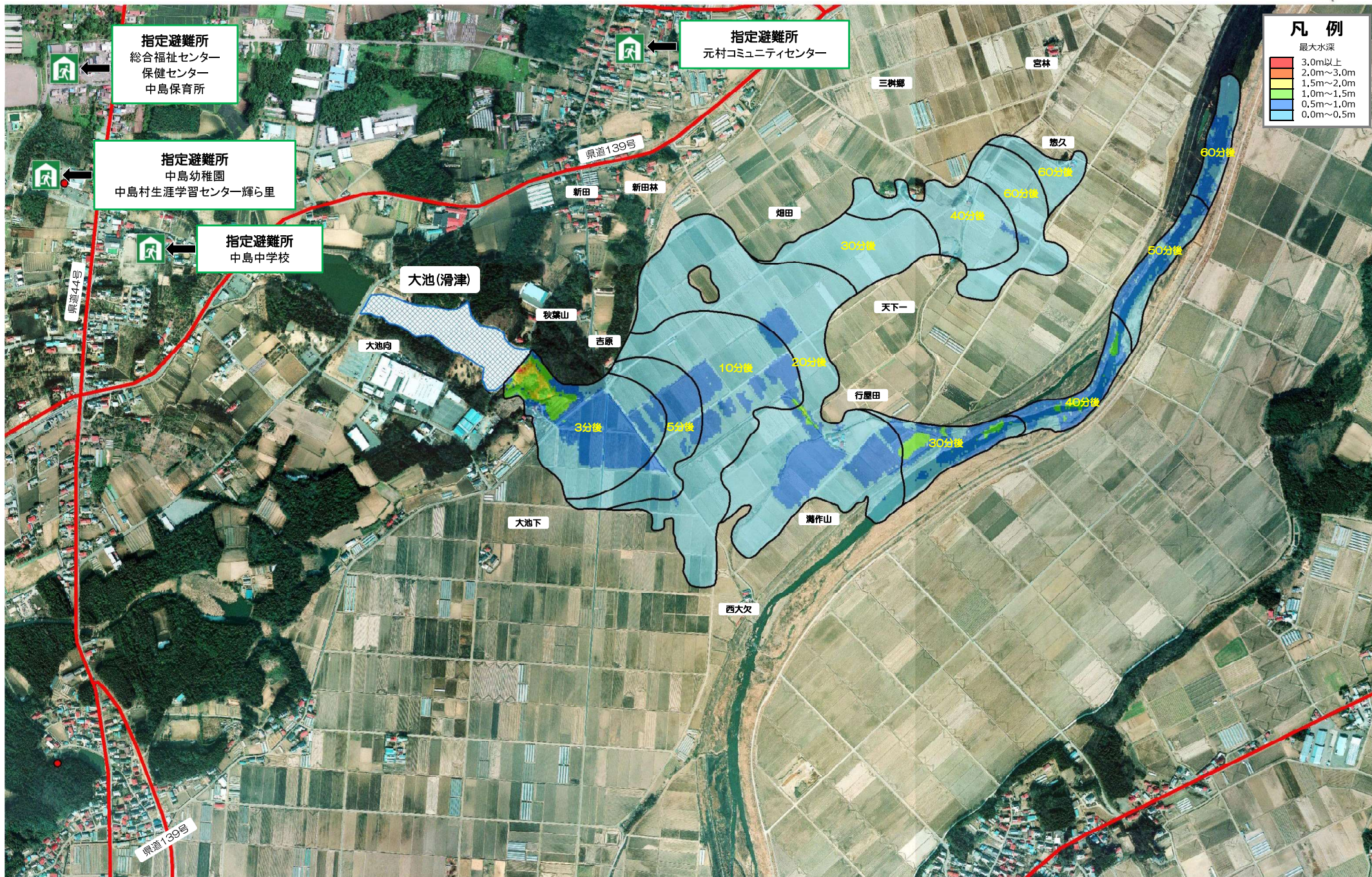
最大水深

Red	3.0m以上
Orange	2.0m~3.0m
Yellow	1.5m~2.0m
Green	1.0m~1.5m
Light Blue	0.5m~1.0m
Dark Blue	0.0m~0.5m



# 大池（滑津）ハザードマップ

(大池が決壊した場合の浸水被害想定範囲)



**凡例**

最大水深

3.0m以上
2.0m~3.0m
1.5m~2.0m
1.0m~1.5m
0.5m~1.0m
0.0m~0.5m